２０１４年度一般入学試験
（Ａ日程）文系学部対象　国語（１月３０日）

左の文章は諸国を旅した筆者の体験の一端を語ったものです。これを読んで、後の問に答えなさい。

かの島に着きぬ。漫々たる波の上に、鳥居はるかにそばだち、百八十間の回廊、さながら浦の上に立ちたれば、おびたたしく船どもも、この廊に着けたり。大法会あるべきとて、内侍といふ者、面々になどすめり。

（中略）

これには幾程の逗留もなくて、上り侍りし船の内によしある女あり。「我は備後の国、和知といふ所の者にて侍る。宿願によりて、これへ参りて候ひつる。住まひも御覧ぜよかし」など誘へども、「土佐の足摺の岬と申す所がゆかしくて侍る時に、それへ参るなり。帰へさに尋ね申さむ」と契りぬ。

かの岬には、堂一つあり。本尊は観音にておはします。隔てもなく、また坊主もなし。ただ、修行者、行きかかる人のみ集まりて、上もなく下もなし。いかなるようぞと言へば、「昔、一人の僧ありき。この所に行ひて居たりき。小法師一人使ひき。かの小法師、慈悲を先とする心ざしありけるに、いづくよりといふ事もなきに、小法師一人来て、時・非時を食ふ。小法師、必ずわが分を分けて食はす。坊主いさめて言はく、『一度・二度にあらず。さのみかくすべからず』と言ふ。また明日の刻限に来たり。『心ざしはかく思へども、防主叱り給ふ。これより後は、なおはしそ。今ばかりぞよ』とて、また分けて食はす。今の小法師言はく、『このほどの情、忘れがたし。さらば、わが住みかへ、いざ給へ、見に』と言ふ。小法師、語らはれて行く。坊主、あやしくて、忍びて見送るに、岬に至りぬ。一葉の船に棹さして、南を指して行く。坊主泣く泣く、『我を捨てていづくへ行くぞ』と言ふ。小法師、『補陀落世界へまかりぬ』と答ふ。見れば、二人の菩薩になりて、船の艫舳に立ちたり。心憂く悲しくて、泣く泣く足摺りをしたりけるより、足摺の岬と言ふなり。岩に足跡とどまるといへども、坊主はむなしく帰りぬ。それより、『隔つる心あるによりてこそ、かかる憂き事あれ』とて、かやうに住まひたり」と言ふ。三十三身の垂戒化現これにやと、いと頼もし。

安芸の佐東の社は、牛頭天王と申せば、祇園の御事思ひ出でられさせおはしまして、なつかしくて、これには一夜とどまりて、のどかに手向けをもし侍りき。

讃岐の白峰・松山などは、崇徳院の御跡もゆかしくおぼえ侍りしに、訪ふべきゆかりもあれば、漕ぎ寄せて下りぬ。松山の法花堂は、如法行ふ景気見ゆれば、沈み給ふともなどかと、頼もしげなり。

「かからむ後は」と、西行が詠みけるも思ひ出でられて、「かかれとてこそ生まれけめ」とあそばされけるいにしへの御事まで、あはれに思ひ出で参らせしにつけても、物思ふ身の憂き事を思ひ出でば　Ａ　の下にもあはれとは見よ

（『とはずがたり』による）

左の文章は諸国を旅した筆者の体験の一端を語ったものです。これを読んで、後の問に答えなさい。

かの島に着きぬ。漫々たる波の上に、鳥居はるかにそばだち、百八十間の回廊、さながら浦の上に立ちたれば、おびたたしく船どもも、この廊に着けたり。大法会あるべきとて、内侍といふ者、面々になどすめり。（中略）

これには幾程の逗留もなくて、上り侍りし船の内によしある女あり。「我は備後の国、和知といふ所の者にて侍る。宿願によりて、これへ参りて候ひつる。住まひも御覧ぜよかし」など誘へども、「土佐の足摺の岬と申す所がゆかしくて侍る時に、それへ参るなり。帰へさに尋ね申さむ」と契りぬ。

解法のポイント

# 主述関係をおさえる

主語の省略

目的語の省略

だれが

だれに・だれを

どうした

をしっかりと補い、確認しながら読んでいく！

問一　傍線部①「いかなるやうぞと言へば」の解釈として、最も適当なものを一つ選びなさい。

① ご本尊はどのようなお姿なのかと言うと、

② ご住職はどのようなお方なのかと言うと、

③ どうしてこんなに人が集まっているのかと言うと、

④ どうしてこのような堂の作り方になっているのかと言うと、

解法のポイント

# 指示表現をおさえる

## 指示語

そ・そ
かく・こ
しか

## 指示表現

いかに
形容詞・形容動詞など

→何に対して述べられているか
→具体的にどのようなことか

かの岬には、堂一つあり。本尊は観音にておはします。隔てもなく、また坊主もなし。ただ、修行者、行きかかる人のみ集まりて、上もなく下もなし。①いかなるやうぞと言へば、「昔、一人の僧ありき。この所に行ひて居たりき。小法師一人使ひき。かの小法師、慈悲を先とする心ざしありけるに、いづくよりといふ事もなきに、小法師一人来て、時・非時を食ふ。小法師、必ずわが分を分けて食はす。坊主いさめて言はく、『一度・二度にあらず。さのみかくすべからず』と言ふ。

問一　傍線部①「いかなるやうぞと言へば」の解釈として、最も適当なものを一つ選びなさい。

① ご本尊はどのようなお姿なのかと言うと、

② ご住職はどのようなお方なのかと言うと、

③ どうしてこんなに人が集まっているのかと言うと、

④ どうしてこのような堂の作り方になっているのかと言うと、

問二
傍線部②「いざ給へ」の意味として、最も適当なものを一つ選びなさい。

① まあ、いいから。
② ほら、手を貸して。
③ さあ、いらっしゃい。
④ では、ご案内ください。

解法のポイント

# 文法知識をおさえる

## 助動詞

推量の助動詞群
助動詞の意味の見分け方

## 助詞

接続助詞
副助詞
終助詞
格助詞

## 敬語

敬意の方向
敬語の種類

また明日の刻限に来たり。『心ざしはかく思へども、坊主叱り給ふ。これより後は、なおはしそ。今ばかりぞよ』とて、また分けて食はす。今の小法師言はく、『このほどの情、忘れがたし。さらば、わが住みかへ、②いざ給へ、見に』と言ふ。小法師、語らはれて行く。坊主、あやしくて、忍びて見送るに、岬に至りぬ。一葉の船に棹さして、南を指して行く。坊主泣く泣く、『我を捨ててていづくへ行くぞ』と言ふ。小法師、『補陀落世界へまかりぬ』と答ふ。見れば、二人の菩薩になりて、船の艫舳に立ちたり。心憂く悲しくて、泣く泣く足摺りをしたりけるより、足摺の岬と言ふなり。岩に足跡とどまるといへども、坊主はむなしく帰りぬ。

問二
傍線部②「いざ給へ」の意味として、最も適当なものを一つ選びなさい。

① まあ、いいから。
② ほら、手を貸して。
③ さあ、いらっしゃい。
④ では、ご案内ください。

問三　傍線部③『隔つる心あるによりてこそ、かかる憂き事あれ』とて、かやうに住まひたり」とは、どのようなことを言っているのですか。最も適当なものを一つ選びなさい。

① 坊主が知らない小坊主を分け隔てしたため、見捨てられて浄土へ行けなかったので、分け隔てを戒める意味で、ここは外と隔てる仕切りもないということ。

② 坊主が使っていた小法師との間に心の壁があって真意がうまく伝わらず、不本意な別れ方をしたことを教訓として忘れぬため、この堂も壁を作っていないということ。

③ 小法師が意地悪を言った坊主を嫌って、浄土に行く際にのけ者にしたので、のけ者にするような分け隔てを戒めて、ここは外と隔てる仕切りもないということ。

④ 小法師に隠し事をする気持ちがあったため、坊主が悲しい目にあったので、そんなことを繰り返さない教訓として、仕切りもなく何も隠れないようにしてあるということ。

解法のポイント

# 指示表現をおさえる

・隔つ心

・かかる憂き事

・かやうに住まひたり

かの岬には、堂一つあり。本尊は観音にておはします。隔てもなく、また坊主もなし。ただ、修行者、行きかかる人のみ集まりて、上もなく下もなし。①いかなるやうぞと言へば、「昔、一人の僧ありき。この所に行ひて居たりき。小法師一人使ひき。かの小法師、慈悲を先とする心ざしありけるに、いづくよりといふ事もなきに、小法師一人来て、時・非時を食ふ。小法師、必ずわが分を分けて食はす。坊主いさめて言はく、『一度・二度にあらず。さのみかくすべからず』と言ふ。また明日の刻限に来たり。『心ざしはかく思へども、坊主叱り給ふ。これより後は、なおはしそ。今ばかりぞよ』とて、また分けて食はす。

今の小法師言はく、『このほどの情、忘れがたし。さらば、わが住みかへ、②いざ給へ、見に』と言ふ。小法師、語らはれて行く。坊主、あやしくて、忍びて見送るに、岬に至りぬ。一葉の船に棹さして、南を指して行く。坊主泣く泣く、『我を捨てていづくへ行くぞ』と言ふ。小法師、『補陀落世界へまかりぬ』と答ふ。見れば、二人の菩薩になりて、船の艫舳に立ちたり。心憂く悲しくて、泣く泣く足摺りをしたりけるより、足摺の岬と言ふなり。岩に足跡とどまるといへども、坊主はむなしく帰りぬ。

それより、『③隔つる心あるによりてこそ、かかる憂き事あれ』とて、かやうに住まひたり」と言ふ。三十三身の垂戒化現これにやと、いと頼もし。

安芸の佐東の社は、牛頭天王と申せば、祇園の御事思ひ出でられさせおはしまして、なつかしくて、これには一夜とどまりて、のどかに手向けをもし侍りき。

解法のポイント

# 指示表現をおさえる

・隔つ心

→見知らぬ小法師を分け隔てした

・かかる憂き事

→坊主が補陀落世界（浄土）へいけなかったこと

・かやうに住まひたり

→堂に隔てがないこと

問三　傍線部③『隔つる心あるによりてこそ、かかる憂き事あれ』とて、かやうに住まひたり」とは、どのようなことを言っているのですか。最も適当なものを一つ選びなさい。

① 坊主が知らない小坊主を分け隔てしたため、見捨てられて浄土へ行けなかったので、分け隔てを戒める意味で、ここは外と隔てる仕切りもないということ。

② 坊主が使っていた小法師との間に心の壁があって真意がうまく伝わらず、不本意な別れ方をしたことを教訓として忘れぬため、この堂も壁を作っていないということ。

③ 小法師が意地悪を言った坊主を嫌って、浄土に行く際にのけ者にしたので、のけ者にするような分け隔てを戒めて、ここは外と隔てる仕切りもないということ。

④ 小法師に隠し事をする気持ちがあったため、坊主が悲しい目にあったので、そんなことを繰り返さない教訓として、仕切りもなく何も隠れないようにしてあるということ。

問四
傍線部④「ば」と同じ意味・用法のものを1つ選びなさい。

① 命生ければ、恥多し。長くとも、四十に足らぬ程にて死なむこそめやすかるべけれ。
② 秋はぎのはなを見れば、雨にぬらせども妻をばまして愛しとこそを思く
③ 今はなき人なれば、かばかりのこともお忘れがたし。
④ 道あらば、住む所にしもよらじ。

解法のポイント

# 文法知識をおさえる

## 接続助詞『ば』

未然形＋ば　→順接仮定（ならば）

已然形＋ば　→恒常条件（いつも）
　　→原因理由（なので）
　　→偶然条件（ところ）

讃岐の白峰・松山などは、崇徳院の御跡もゆかしくおぼえ侍りしに、訪ふべきゆかりもあれ④ば、漕ぎ寄せて下りぬ。松山の法花堂は、如法行ふ景気見ゆれば、⑤沈み給ふともなどかと、頼もしげなり。「からむ後は」と、西行が詠みけるも思ひ出でられて、「⑥かかれとてこそ生まれけめ」とあそばされけるいにしへの御事まで、あはれに思ひ出で参らせしにつけても、物思ふ身の憂き事を思ひ出でば

苔の下にもあはれとは見よ

（『とはずがたり』による）

問四
傍線部④「ば」と同じ意味・用法のものを1つ選びなさい。

① 命生ければ、恥多し。長くとも、四十に足らぬ程にて死なむこそめやすかるべけれ。
② 秋はぎのはなを見れば、雨にぬらせども妻をばまして愛しとこそを思く
③ 今はなき人なれば、かばかりのこともお忘れがたし。
④ 道あらば、住む所にしもよらじ。

問五　傍線部⑤「沈み給ふともなどかと、頼もしげなり」の部分には、筆者のどのような思いがうかがわれますか。最も適当なものを一つ選びなさい。

① 一度は流罪にされ汚名を着せられても、崇徳院は必ず復権されると信じて疑わない気持ち。

② 底辺に落ちたと噂された崇徳院だが、その祟りなどあり得ないと全く恐れない気持ち。

③ 崇徳院の恨みに迷う心さえも救ってくれるであろう功徳のあるお経を信頼する気持ち。

④ 崇徳院が魔道に落ちて迷っているなら、何とか救ってもらいたいと心から頼みたい気持ち。

解法のポイント

# 心情の流れをおさえる

**きっかけ**

その心情のきっかけとなった出来事

**思考**

きっかけとなった出来事に対してどのように考えているか

**心情**

どのように感じているか

讃岐の白峰・松山などは、崇徳院の御跡もゆかしくおぼえ侍りしに、訪ふべきゆかりもあれ④ば、漕ぎ寄せて下りぬ。松山の法花堂は、如法行ふ景気見ゆれば、⑤沈み給ふともなどかと、頼もしげなり。「からむ後は」と、西行が詠みけるも思ひ出でられて、「⑥かかれとてこそ生まれけめ」とあそばされけるいにしへの御事まで、あはれに思ひ出で参らせしにつけても、物思ふ身の憂き事を思ひ出でば

苔の下にもあはれとは見よ

（『とはずがたり』による）

解法のポイント

# 心情の流れをおさえる

きっかけ

思考

心情

## 解法のポイント

# 心情の流れをおさえる

**きっかけ**

松山の法花堂で、如法行ふ（仏教の教えどおりに読経して供養する）様子を見た

**思考**

沈み給ふともなどか
↓崇徳上皇が死後たとえ魔道に落ちたとしても極楽に行くだろう

**心情**

頼もしげなり
↓崇徳上皇の怨念による祟りなど起こらないと安心した

問五　傍線部⑤「沈み給ふともなどかと、頼もしげなり」の部分には、筆者のどのような思いがうかがわれますか。最も適当なものを一つ選びなさい。

① 一度は流罪にされ汚名を着せられても、崇徳院は必ず復権されると信じて疑わない気持ち。

② 底辺に落ちたと噂された崇徳院だが、その祟りなどあり得ないと全く恐れない気持ち。

③ 崇徳院の恨みに迷う心さえも救ってくれるであろう功徳のあるお経を信頼する気持ち。

④ 崇徳院が魔道に落ちて迷っているなら、何とか救ってもらいたいと心から頼みたい気持ち。

問六
傍線部⑥「かかれとてこそ生まれけめ」は、「憂き世にはかかれとてこそ生まれけめ」とわり知らぬ我が涙かな」という歌の一節ですが、この歌のここでの解釈としてもっとも適当なものを一つ選びなさい。

① 現実にはこのように辛い境遇に生きる定めで生まれたのだろうか。そんな道理などとても理解できない憤りの涙が流れることだ。

② 現世にはこのような辛い境遇に生きる定めで生まれたのだろうに、その道理が分かっていないかのように涙がついこぼれてしまうことだ。

③ この辛い世に帝の位に上るべき身分で生まれたのに、それとはうらはらにとても理屈に合わない目にあって、涙がこぼれることだ。

④ この辛い世に帝の位に上るべき身分で生まれたのであろう。それなら、こんなことで泣くべきではないのに思いどおりにならないのは自分の涙だなあ。

解法のポイント

# 文法知識をおさえる

## 係助詞『こそ』

こそ～已然形。　→強調（訳さない）

こそ～已然形、～　→逆接（～だけれども）

問六
傍線部⑥「かかれとてこそ生まれけめ」は、「憂き世にはかかれとてこそ生まれけめ」とわり知らぬ我が涙かな」という歌の一節ですが、この歌のここでの解釈としてもっとも適当なものを一つ選びなさい。

① 現実にはこのように辛い境遇に生きる定めで生まれたのだろうか。そんな道理などとても理解できない憤りの涙が流れることだ。

② 現世にはこのような辛い境遇に生きる定めで生まれたのだろうに、その道理が分かっていないかのように涙がついこぼれてしまうことだ。

③ この辛い世に帝の位に上るべき身分で生まれたのに、それとはうらはらにとても理屈に合わない目にあって、涙がこぼれることだ。

④ この辛い世に帝の位に上るべき身分で生まれたのであろう。それなら、こんなことで泣くべきではないのに思いどおりにならないのは自分の涙だなあ。

解法のポイント

# 指示表現をおさえる

・かかれ

→源憲上皇が保元の乱に敗れ流罪にされたこと

問六
傍線部⑥「かかれとてこそ生まれけめ」は、「憂き世にはかかれとてこそ生まれけめ」とわり知らぬ我が涙かな」という歌の一節ですが、この歌のここでの解釈としてもっとも適当なものを一つ選びなさい。

① 現実にはこのように辛い境遇に生きる定めで生まれたのだろうか。そんな道理などとても理解できない憤りの涙が流れることだ。

② 現世にはこのような辛い境遇に生きる定めで生まれたのだろうに、その道理が分かっていないかのように涙がついこぼれてしまうことだ。

③ この辛い世に帝の位に上るべき身分で生まれたのに、それとはうらはらにとても理屈に合わない目にあって、涙がこぼれることだ。

④ この辛い世に帝の位に上るべき身分で生まれたのであろう。それなら、こんなことで泣くべきではないのに思いどおりにならないのは自分の涙だなあ。

解法のポイント

主述関係をおさえる

指示表現をおさえる

文法知識をおさえる

心情の流れをおさえる